

TOPPAN

CSRレポート 2009
トッパンの社会的責任活動報告
ダイジェスト版



本ダイジェスト版は、より多くのステークホルダーの皆さまへトッパンのCSR活動をご紹介するために、2009年7月に発行した「TOPPAN CSRレポート2009」から情報を抜粋して作成しました。活動の全体について詳細な情報をご希望される方は、下記ホームページより「TOPPAN CSRレポート2009」のPDFデータをダウンロードいただくか、冊子をご請求ください。
<http://www.toppan.co.jp/csr/csrreport.html>

CONTENTS

トッパンのCSR	2
トップメッセージ	3
特集：社会の課題解決に貢献する事業	5
お客さまのために	9
社会・地域社会とともに	11
社員とともに	13
取引先とともに	15
環境への取り組み	16

会社概要

社名	凸版印刷株式会社 TOPPAN PRINTING CO., LTD.
本社所在地	〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地
創業	1900年(明治33年)1月17日
代表取締役社長	足立直樹
従業員数(単体)	11,548名(2009年3月末現在)
従業員数(連結)	47,522名(2009年3月末現在)
資本金(単体)	1,049億円

グループ概要

トッパングループは、凸版印刷株式会社(当社)および関係会社219社(子会社195社、関連会社24社)で構成されており、情報・ネットワーク系、生活環境系およびエレクトロニクス系の3事業領域を中心に幅広い事業活動を展開しています。
 トッパンおよび関係会社の当該事業に関わる位置づけと事業の種類別セグメントとの関連は「CSRレポート2009」をご覧ください。

事業領域

● 情報・ネットワーク系

円滑なコミュニケーションを求めらるお客さまに対し、「情報の価値を高める」「情報を効果的に届ける」ソリューションを提供する事業領域



証券・カード部門



商業印刷部門



出版印刷部門

● エレクトロニクス系

先端技術を結集し、デファクトスタンダードとなるようなエレクトロニクス部品を提供する事業領域



ディスプレイ関連部門



半導体関連部門

● 生活環境系

医・食・住を中心としたさまざまな生活シーンに対して、心豊かなくらしづくりに最適な製品とサービスをグローバルに提供する事業領域



パッケージ部門



高機能部材部門



建装材部門

● パーソナルサービス系

人とモノをつなげる革新的な情報サービス・情報デバイスを、独自ブランドで生活者へ直接提供する事業領域

● 次世代商品系

将来の成長が見込める事業分野を開拓し、次世代へつなげる高機能産業材を提供する事業領域

トツパンのCSR

21世紀のトツパンのあるべき姿である「TOPPAN VISION21」は、目指すべき企業の姿としての「企業像」とそれを実現するフィールドである「事業領域」からなっています。企業像は、「企業理念」「経営信条」「行動指針」の3つで構成され、トツパンが社会や環境と調和しながら成長していくための基本的な考え方や活動の方向性を定めています。これを実現することこそがトツパンの社

会的責任(CSR)にほかなりません。

企業像の実現に向けた活動の具体的な対象となるステークホルダーを「お客さま」「取引先」「社会・地域社会」「社員」「株主・投資家」の5つとし、ステークホルダーとの対話に基づき、優先して取り組むべき8つの推進テーマを定めて活動を推進しています。

■お客さま

製品安全と品質保証／社会の課題解決に貢献する製品・サービスの提供

研究・開発・生産・流通の全工程で品質を保証する「総合品質保証」を推進しています。また、印刷で培った技術を用い、社会的課題解決のための製品・サービスを開発しています。



■取引先

信頼のサプライチェーンづくり

トツパングループ「CSR調達ガイドライン」に基づいて、取引先と協働し、CSRに対する理解・浸透と実践をサプライチェーン全体に展開していきます。



■社会・地域社会

社会、地域、文化への貢献

情報・文化の担い手として、文化の発展や社会的な課題の解決に貢献する活動を行っています。また、事業を展開する世界各地において、地域との共生を図っていきます。



■社員

人財の尊重と活用

従業員を会社の貴重な財産「人財」ととらえ、多様な人財が安全で安心して働ける職場環境を提供し、開発・育成と適切な処遇によって「働きがいのある会社」をめざします。



CSR 8つの推進テーマ

■株主・投資家

公正・公平な情報開示と透明性の向上

経営活動の内容を公正・公平に開示し、透明性の向上に努めます。



情報リスクマネジメントの推進

お客さまからお預かりする情報の安全管理は、私たちの至上命題です。社内外に存在するさまざまなリスクを認識し、情報漏えいを防止する強固な管理体制を構築しています。



法令と企業倫理の遵守

常に法令を遵守し、企業倫理に沿った行動をとるべく、国内外の事務所においてその指針となるトツパンの「行動指針」の浸透と徹底に取り組んでいます。



地球環境の保全

持続可能な社会の実現に向けて、「トツパングループ地球環境宣言」に基づき、事業活動で生まれる環境負荷を低減する活動と、環境配慮型製品・サービスの開発・提供に取り組んでいます。



「ふれあい豊かな暮らし」に貢献していくために

私たちトッパングループは、持続可能な社会の実現に寄与し、「社会から信頼され、尊敬され、その上で強い企業」をめざします。

信頼され、尊敬され、その上で強い企業をめざして

米国のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況ともいえる経済情勢の悪化は、グローバル経済に混乱を引き起こし、各国の企業に深刻な打撃を与えました。

この影響は、例外なくトッパンにも押し寄せ、事業構造改革とコスト圧縮による収益力の向上、新たな事業の創出、グローバルな事業展開の加速に努めてまいりましたが、2008年度の最終損益は1949年の上場以来初めて赤字を計上せざるを得ない大変厳しい結果となりました。



この状況をふまえ、現在業績の早期回復のための施策をグループ一丸となって遂行しているところでありますが、私は、このような状況においてこそ、地に足をつけ、企業の社会的責任(CSR)への取り組みをしっかりと進めていかなければならないと考えています。

社会の持続的な発展なくして企業の持続的な発展はありません。したがって、社会と企業双方の持続的な発展を実現するためには、企業としての社会的責任をきちんと果たしていくことが大変重要です。

私は、常に「社会から信頼され、尊敬され、その上で強い企業」をつくりあげていこうと呼びかけていますが、今、まさにこの一文にこめた意味をもう一度かみしめ、行動する時であるとの思いを強くしています。

持続可能な社会の実現に向けて

トッパンは、「TOPPAN VISION 21」をすべての企業活動の基盤としています。

「TOPPAN VISION 21」は、大切にすべき価値観と規範を示した「企業理念・経営信条・行動指針」からなる「企業像」と、これに基づいた「事業領域」から成り立っています。

私は、この企業像を実現することがトッパンの企業としての社会的責任であると考えます。トッパングループの事業を通じて、社会やステークホルダーの皆さまに対して、どのような責任をどのようなかたちで果たしていくのか、トッパングループに働く一人ひとりが正確に理解し、日々の業務の中で実践していくことで必ず持続可能な社会の実現に寄与できると確信しています。

環境経営を見つめ直して

2008年は、京都議定書の第一約束期間がはじまり、また洞爺湖サミットが開催されるなど、地球温暖化防止に向けての新たな段階に入った年でした。

トッパンは1991年に環境への本格的な取り組みを推進すべく本社にエコロジーセンターを設置して全社的な取り組みを進めてきました。しかし、事業経営の視点で環境への取り組みを見つめ直してみると、その取り組みにはまだまだムダやムラがあることがわかりました。

そこで2008年度は、環境への取り組みによってさらなるコストダウンやモラルアップ効果を創出する「グリーンアップ活動」をスタートさせました。この活動は、全国の各工場の工場長を責任者に、取締役自らが施策を推進し、社員への習慣化・定着化を図るものです。細かな施策にまで数値目標を設け、監査とレビューを繰り返すことで、徹底して実施していきます。

また、近年、環境配慮型製品として自然エネルギーを利用した発電装置の代表的な存在である太陽光発電が注目を集めています。

トッパンは生活環境系の事業領域で培った高機能バリアフィルム真空蒸着技術を核に、太陽電池のバックシートを供給してきましたが、2009年4月には、次世代太陽電池バックシートを生産する国内最大級の新工場を埼玉県深谷市に竣工し、太陽電池発電量換算で年間2ギガワット以上の生産体制を構築しました。

このように環境保全活動と環境配慮型製品の開発・生産活動は、環境経営を推進するための車の両輪であり、それぞれをバランス良く回転させていくことが重要であると考えます。

さらに、2008年度は環境経営をより強固なものとするべく、エコロジーセンターの組織機能の強化を図るとともに、これまでの「凸版印刷地球環境宣言」の見直しを行い、2009年4月には「トッパングループ地球環境宣言」を策定し、グループ全体で環境への取り組みをさらに加速させていくことを確認しました。

社会的課題を認識しその解決に向けて

私は、このような環境に対する取り組みはもちろん、社会が抱えるさまざまな課題を認識し、その解決に資する製品やサービスを提供していくことも企業に求められる重要な社会的責任の取り組みであると認識しています。

一例をあげると、血液一滴から遺伝子特性を簡便に検出し、その人に最適な治療を行うオーダーメイド医療に欠かせない検査用チップ（SNPチップ）は、トッパンの微細加工技術やコーティング技術を応用したものです。

これによりムダな投薬や副作用を抑制することが可能となり、近年増大する医療費の削減につながることも期待できます。

2008年度は、「企業理念」に照らし合わせ、このような社会的課題の解決に資する事業のアイデアを社員から募集するコンテストを実施しました。全社で社会的課題に対する認識を高めるとともに、今後それを解決する新たな事業へと結びつけていきたいと考えています。

ステークホルダーの皆さまとともに

企業の社会的責任は、「企業と関係するステークホルダーに対する責任」と読み替えてとらえることができます。さまざまな施策を実施しCSR活動を展開しても、それが社会やステークホルダーから求められているものでなければ「独りよがりなCSR」でしかありません。したがって、ステークホルダーの声、すなわち、さまざまな指摘や意見、また期待や要望に対して真摯に耳を傾けて聴くところから、CSRが始まると言っても過言ではありません。

トッパンは、2007年度からこれまでのステークホルダーダイアログをさらに進化させ、トッパンの取り組みを毎年定点観測し、その進捗を評価していただく「CSR推進研究会」を開催しています。2009年2月に開催した第2回目となるこの研究会で頂戴した指摘や意見、またCSRを進めるにあたってのアドバイスは、トッパンのCSRマネジメントのPDCAサイクルにしっかりと取り込み、推進してまいります。

今後ともステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの基本となるCSR活動の情報開示に努めてまいりますので、是非忌憚のないご意見をお聞かせください。

私たちトッパングループは、豊かで満ち足りた生活を送ることのできる持続可能な社会の実現に向けた取り組みを継続し、「社会から信頼され、尊敬され、その上で強い企業」になることをめざします。今後とも皆さまからの一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年7月

凸版印刷株式会社
代表取締役社長

足立直樹



特集 1

オーダーメイド医療の実現に向けて SNPチップを用いた遺伝子解析システム

日本では少子高齢化社会の進行や、生活習慣病・肥満の広がりなどから、健康・医療への関心が高まっています。また、世界的には、国際社会が協力して2015年までに達成すべき目標としてまとめられた「ミレニアム開発目標」の中に、「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止」という項目が掲げられています。健康は、人と社会の基盤となる最も重要な事項の一つであり、トッパンは印刷で培った技術を用いて、それを支える事業に取り組んでいます。

オーダーメイド医療とトッパン

オーダーメイド医療とは、患者個々人の個性に合った最適な医療を行うことです。現在、最先端の技術を用いて、投薬を行う前に患者の遺伝子を分析することで、薬が患者に与える効果や副作用の有無などを判別し、適切な薬を適切な量だけ提供することが可能になりつつあります。

このような医療が日常の中に広がれば、効果が少ないと思われる薬や副作用の発生が予想される薬の投与を避けることが可能となるので、患者の肉体的な負担や苦痛を回避・軽減できることはもちろん、医療がさらに効率化され、医療費の削減につながることも期待できます。

日本では、オーダーメイド医療を実現する基盤の構築に向けて、2003年から「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」が開始されています。すでに47疾患、約30万症例のDNA、血清および臨床情報を収集し、現在それらを利用して遺伝子の個人差と薬の効果、副作用などの関係や、病気との関係を調べることに取り組んでいます。

トッパンは、新たな挑戦として1999年に研究テーマを設定し、社会的に需要が増しているライフサイエンス分野への取り組みを進めてきました。この中で、独立行政法人理化学研究所などと共同で「SNP*チップを用い

た医療用の遺伝子解析システム」の開発に取り組み、2007年10月には、理化学研究所および株式会社理研ベンチャーキャピタルと共同で株式会社理研ジェネシスを設立しました。理研ジェネシスは、遺伝子の受託解析サービスや、病院など医療の現場で利用可能な小型の遺伝子解析装置およびチップの販売を通して、オーダーメイド医療の実現をめざしています。

ミレニアム開発目標

<http://www.undp.or.jp/aboutundp/mdg/>

オーダーメイド医療実現化プロジェクト

<http://www.biobankjp.org/>

独立行政法人理化学研究所 ゲノム医科学研究センター

<http://www.src.riken.jp/>

株式会社理研ジェネシス

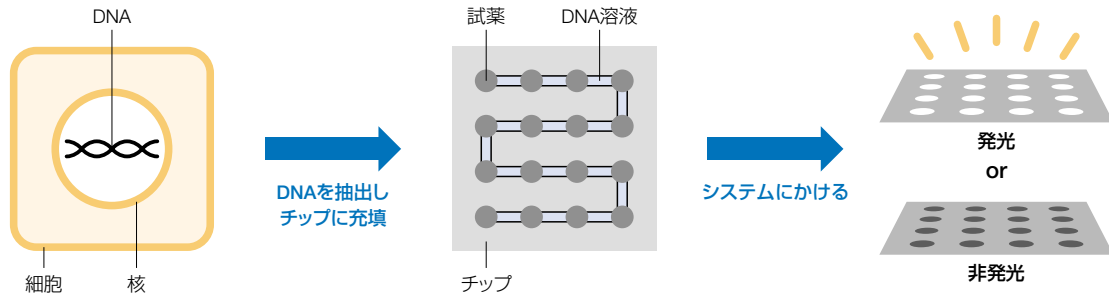
<http://www.rikengenesi.jp/>

SNPチップを用いた医療用の 遺伝子解析システム

このシステムは、患者の血液から遺伝子を解析する仕組みになっていて、1滴の血液から、わずか1時間で遺伝子型を判定することが可能です。

まず患者の血液を採取し、その中に含まれる細胞からDNAを取り出し、SNPチップ内に充填します。チップに

SNPチップ分析の模式図



は、微量のDNAを大量に増幅させるとともに、SNPのタイプに応じて蛍光を発するための乾燥試薬が塗布されています。試薬に反応して蛍光を発するか、否かの差によって、検査対象とした薬の効果の差や、副作用の有無を精度高く予測することができるわけです。

微量のDNAを間違いなく反応させるための精密なチップを成型し、さらに試薬を正確に塗布するために、トッパンが印刷で培ってきた微細加工、表面加工、成型、塗布などの技術が活用されています。

タイにおける臨床研究

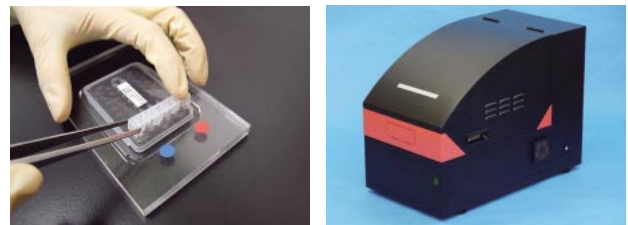
2007年の世界のHIV感染者数は約3,300万人、新規感染者数は約250万人、エイズによる死者は約200万人とされています。感染者数の伸びは鈍化する傾向にありますが、新規感染者は未だ多く存在し、発病すると完全にエイズを治す薬はまだ存在しないため、HIV／エイズは依然として深刻な社会問題です。

タイは、アジア地域においてはHIVの流行が比較的早くから拡大し、1990年頃には深刻な状態に陥りました。政府による予防活動が功を奏して流行を食い止めることができ、新規感染者は減少していますが、2005年における感染者数は58万人とも言われています。

トッパンは、このタイで行われている抗HIV薬の投薬方法に関する研究にSNPチップを用いた遺伝子解析システムを提供しています。検証の対象となるネビラピンは世界中で広く使用されているエイズの発症や母子感染を防止する薬で、安価ではありますが薬疹など副作用の発症頻

度の高い薬です。そこで、患者への投薬前に薬疹の発症リスクの判定ができるようにするための研究が、タイのマヒドン大学と日本の理化学研究所によって行われています。

トッパンは、このような研究をはじめ、引き続きさまざまな研究用途にシステムの提供を行い、その結果を活かしながら幅広く医療現場に役立つシステムの開発を行っていきます。



SNPチップ(左)と、チップを用いて遺伝子の解析をするシステム(右)



タイ・国立マヒドン大学付属ラマティボディ病院の研究室

※ **SNPとは**：ヒトには先天的な個人差がありますが、これは約30億塩基あると言われていたゲノム塩基配列の違いに由来しています。その中でも塩基配列中の一塩基が各個人で異なっている箇所があり、それらはSNP (single nucleotide polymorphism: 一塩基多型) と呼ばれています。これらの違いが薬物応答性や病気のなりやすさなどの個人差を生むため、これらを検査することで、各患者それぞれに適した投薬や治療の実現が可能になります。



特集 2 芸術の力で、脳と心を活性化する「臨床美術」

忙しい生活、人との関係、理想と現実との狭間で、人の心は知らず知らずのうちに疲れていることがあります。また、年齢を問わず、ストレスによって心を閉ざしてしまう人、自信を失い悲観的思考に陥ってしまう人も増えています。認知症の方とその家族など、大きな課題を抱えている方もいます。さらに、これからの社会にとっては、次世代を担う子どもたちに創造力とおもいやりにあふれる心をもってもらうことも非常に大切です。トッパンは、2008年度に、芸術がもつ力で社会のさまざまな課題解決に貢献することをめざす企業をグループに迎え、新たな取り組みを開始しました。

“臨床美術”

臨床美術とは、絵画や彫刻など、芸術的な創作活動の過程を通じて五感を刺激し、右脳を活性化させる芸術療法です。認知症の予防や豊かな感性の育成、疲れた心のリフレッシュなどを目的として実施されています。この臨床美術事業に、トッパングループの芸術造形研究所が取り組んでいます。

芸術造形研究所は、1990年代にアートセラピー分野での活動を開始しました。1998年からは東北福祉大学・感性福祉研究所芸術療法班としてカリキュラムの研究・開発に取り組んできました。専門的な知識と高い技術を身につけて、福祉や子どもの教育現場で活躍できる臨床美術士の育成を主な事業の一つとしています。さまざまな現場で臨床美術に携わる臨床美術士の数は全国で150名、東京をはじめ日本の各地で開催する臨床美術士養成講座を受講した修了生は2,000名(2009年3月末現在)となりました。また、高齢者の認知症の予防や改善を目的として11の医療法人・老人保健施設、8つの地方自治体においてこの手法が導入されました。

芸術造形研究所では、臨床美術士の育成のほかに独自のクラス開催も行っており、2才から12才までの子どもの創造性を育むことを目的とする「ダヴィンチクラス」や、小学校、幼稚園、保育園などの現場で、情操教育、環境教育、福祉教育などに美術の持つ可能性を活かしたクラスを開催しています。

芸術造形研究所が、これまでに開発した臨床美術カリキュラムは400種類以上となり、現在も日々新たなカリキュラムの開発に取り組んでいます。

カリキュラムの特徴

絵は誰でも描けますが、美術に苦手意識をもつ人がほとんどです。臨床美術のカリキュラムは、誰もが集中して取り組み、楽しみながらすばらしい作品を完成させる達成感が得られるよう工夫されています。「評価しない、触れる、聞く、ほめる」が実施される際のキーワードです。

まず、参加者には絵や造形の対象を五感で感じてもらいます。「雨」がテーマならその音を聞き、「果物」がテー



マなら、味、香り、重さ、手触りをしっかりと感じてもらいます。

次に、感じたことをイメージしながら色や素材を選び、それを具体的に表現します。はじめに輪郭から描くのではなく、背景を先に塗る、色を塗り広げながらイメージする輪郭に近づけるなど、工夫の凝らされた手順に沿って創作することで、誰もが独自の世界観をもつすばらしい作品をつくり上げることができます。五感を働かせることによる創作過程によって、右脳が活性化されます。

完成した作品は、すべてが個性豊かなすばらしい作品です。作品が完成した後は、上手・下手の評価ではなく、それぞれの作品のよい点をほめます。ほめられることで、参加者にはうれしさ、やる気、自信、自己肯定など、前向きな気持ちが生まれ、楽しい記憶が残ります。

2008年度には、埼玉県春日部市立幸松小学校で、総合学習の時間を活用したクラスを開催しました。これは、小学生が臨床美術のカリキュラムを体験し、次に、小学生自らが先生となって地域の高齢者にカリキュラムを体

験してもらうもので、2006年度から継続しています。小学生は、自らの個性を伸ばすとともに、自然とそれぞれの作品をほめあうようになり、また、高齢者にもいきいきとした笑顔が生まれました。次世代育成としても福祉教育としても高い評価をいただくことができました。

2009年度に向けて

2008年11月からは東京藝術大学との共同研究を開始しました。これは、社会人の心のリフレッシュや今までの自分になかった視点・発想を発見してもらうためのカリキュラムを開発するもので、研究の一環としてトッパングループの社員も参加しました。今後は社会人のためのアート・サロンおよびアート・メンタルヘルス事業として広く展開していく予定です。

社会への貢献という意識が高まる現代において、臨床美術を学ぶ人、体験する人は着実に多様化しています。今後も、美術がもつ力で、社会に貢献していきます。

カリキュラム例：極楽鳥花



感性を刺激する

「南国」からイメージする色の絵の具をローラーで広げる。イメージすること、色を選ぶことで感性が刺激される。



右脳活性化

背景のかたちを塗りつぶしていく。背景のかたちに注目することで、右脳が活発に動き出す。



仕上げ

感覚が鋭くなっているところで、極楽鳥花をよく観察し、花の様子を描き加える。さらに感性が活発化するとともに、満足度の高い作品が完成する。

お客さまのために

企画・開発から出荷までの全工程で品質を保証する「総合品質保証」に基づき、製品安全と品質保証に取り組んでいます。また、少子高齢化、環境など、社会の課題解決に貢献する製品・サービスを、印刷技術によって開発しています。

Feature : 燃料電池の膜電極接合体 (MEA)

燃料電池は水素と酸素を反応させて電気を発生させる発電装置です。従来の発電方式と比較して発電効率が高く、発電の際に二酸化炭素を排出せずに水だけを排出することから、環境負荷の少ない次世代エネルギーとして期待されています。トッパンは、この燃料電池の心臓部である「膜電極接合体 (MEA)」とセパレータの開発に取り組んでいます。MEAは、触媒層と電解質膜を組み合わせたもので、発電効率や耐久性にも深く関わっています。

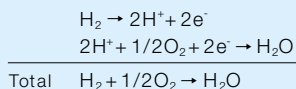
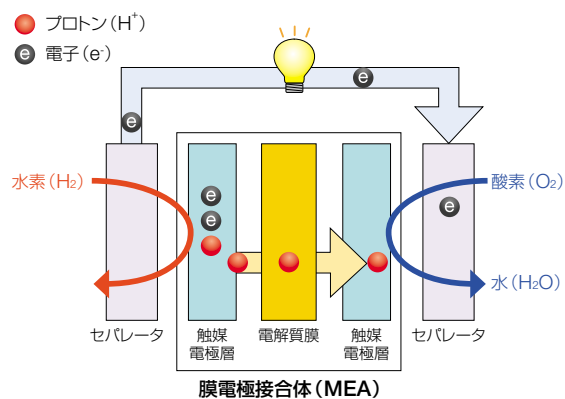
発電効率を上げるためには、水素、酸素、電子、水が触媒層中をスムーズに流れることが求められるため、

トッパン独自のインキ化技術、コーティング技術、ラミネート技術を用いて、理想的なMEAを追求しています。

2008年度は、インキ化プロセスで非白金触媒の性能向上に取り組み、一定の成果を得ました。2009年度は、産官学連携プロジェクトを活用し、燃料電池用新規材料の開発を進めるとともに、コーティングやラミネートなどの技術を突き詰め、低コストで高効率な生産技術を確立していきます。

今後は、自動車メーカーや定置用燃料電池メーカーとの関係強化にも取り組みながら、燃料電池の新たな可能性を探っていきます。

燃料電池の膜電極接合体 (MEA)



膜電極接合体 (写真中央部のシート)

総合品質保証

企画・開発から出荷までの全工程で品質づくりに取り組む「総合品質保証」を経営の最重要課題としています。

営業・企画部門における取り組み

総合プロデューサーとして、各工程へお客さまの要求を的確に伝達し、品質づくりをリードしています。教育テキストでは、安全な製品づくりや関連法を取り扱い、事業(本)部ごと、教育や事例共有などを行っています。

研究・開発部門における取り組み

総合研究所では、研究開発のスタートから成果物の製品化(デザインレビュー)まで、PL法などの法令に準じた製品安全が考慮される仕組みを構築しています。

技術・生産部門における取り組み

技術部門が最適生産条件を設定し、生産部門がさらに不良の出ない条件へと改善し、これをISO9001の仕組みで管理します。さらに、この仕組みが徹底されているか監査を行っています。



社会の課題解決に貢献する技術開発

総合研究所を中心に、自由な発想による未知の領域への挑戦や、将来のニーズに備えた製品の研究開発を進めています。印刷で培われた技術や製版技術を応用した微細加工技術、そして表面加工技術などの進化は、フルカラー有機ELディスプレイや、医療用の検査チップ、燃料電池の部材など、次世代製品の開発につながってきました。

ユニバーサルデザイン(UD)の取り組み

UDを情報コミュニケーション産業として取り組むべき社会的責任の一つとらえています。お客さまと生活者のコミュニケーションに関わる多彩な分野で、使い手に配慮した製品・サービスを常に考え、提供し、ふれあい豊かなくらしに貢献することをめざしています。

パッケージ部門を中心に1998年より高齢者の色の見え方について研究を開始し、2008年度には、専門家である岡嶋克典氏(横浜国立大学准教授)と共同開発した「色覚変換装置」の特許を取得、高齢者や色弱者にもわかりやすいデザインの設計を積極的に推進しています。

また、さまざまな利用シーンを想定した利用者調査に基づいて、生活者視点での商品・サービス開発も強化しています。パッケージ部門では「使いやすさ・わかりやすさ」を追求した包装材の企画・開発、情報・ネットワーク系部門では「見やすく、検索しやすく、わかりやすい」パンフレットの企画・開発に注力し、受注も拡大しました。



「アイカメラ」を用いて、生活者の視線の動きを調査



紙器(UDマルチカートン、開け閉め上手、えくぼくん、ほか)



軟包装(UDスタンディングパウチ、ほら切れた、ほか)プラスチック(UDカップ、ほか)

社会・地域社会とともに

「情報・文化の担い手として」という企業理念に則り、情報コミュニケーション産業ならではの文化貢献活動や社会貢献活動に取り組んでいます。また、国内外の各事業所では、地域貢献活動やコミュニケーション活動を通じて、地域との共生を図っています。

Feature：絵本を届ける運動

2008年11月9日にトッパン小石川ビルにおいて社員が企画・主催する社会貢献イベントを開催し、社員と家族、地域の方々、障がい者支援団体の皆さまを招待しました。

参加者には、トッパンホールにおけるクラシック音楽のミニコンサートを楽しんでいただいた後に、「絵本を届ける運動」に参加をしていただきました。これは、(社)シャンティ国際ボランティア会が主催する活動で、日本で発行された絵本に東南アジアの国々の現地語の訳文シールを貼り、絵本が不足しているこれらの国々の子どもたちに届けるというものです。簡単なようで意外と難しい訳文シールの貼り付けは、家族やグルー

プで協力して行っていただきました。参加者によって訳文シールが貼りつけられた約200冊の絵本は、ラオスやカンボジアなどの子どもたちに贈られました。

また、東京都社会福祉協議会「東京ボランティア・市民活動センター」の協力により、障がい者の作業所やボランティア団体など11団体によるバザーも開催しました。この取り組みは、作業所で働く障がい者の自立や就労を支援するものです。作業施設で働く障がい者が製作した小物・七宝焼き・菓子などが販売され、参加者からの評価も好評でした。

今後も引き続き積極的に社会貢献活動に取り組んでいきます。



訳文シールの貼り付け



バザーの様子

文化貢献活動

印刷博物館

印刷の歴史を紹介する総合展示、印刷を体験いただける参加型の印刷工房、VR(バーチャルリアリティ)シアターなどがあり、来館者数は開館以来26万人を超えました。印刷工房は、教育・研修の場として小学校から企業まで、150以上の機関・団体に活用されています。

2008年度は、戦後デザインの土台を築いた時代のグラフィックデザインなどを紹介する「1950年代展」、大衆文化を担うメディアへと発展した雑誌の変遷について紹介する「ミリオンセラー誕生へ」展を開催しました。



「ミリオンセラー誕生へ」展



1950年代のグラフィック展

トッパンホール

「感動の共有」をコンセプトに誕生した408席のクラシック音楽向けコンサートホールで、木のぬくもりあふれる優れた音響空間に高い評価をいただいています。

開館以来、世界的な演奏家の公演から、若手音楽家を発掘する入場無料の〈ランチタイムコンサート〉(年6回)や、若手育成を趣旨とした〈エスポワール〉シリーズまで幅広く展開。2008年度は35回の主催公演を開催し、〈^{リート}歌曲の森～詩と音楽～〉〈^{リート}生誕100年記念メシアン—光と闇〉などのシリーズ企画が話題を呼びました。



〈^{リート}歌曲の森～詩と音楽～〉
クリストフ・ブレガルディエン



東京音楽大学「弦楽アンサンブル演奏会」

社会貢献活動

2007年度から「トッパンチャリティーコンサート」を開催しています。このコンサートは、世界の子どもたちの識字率の向上に貢献することを目的に開催し、チケット販売金額から出演者の出演料を差し引いた金額を国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の日本における公式支援窓口である特定非営利活動法人国連UNHCR協会に寄附し、難民の子どもたちの教育資金として活用していただいています。第2回目は、2009年3月6日と7日に開催し、2日間合計で2,465,000円を寄附することができました。



奥村愛(ヴァイオリン) /
山田武彦(ピアノ)



写真左: 館野泉(ピアノ)、
写真右: 平原あゆみ(共演)

地域貢献活動

国内外の多くの地域で事業活動を行っており、各地域との共生も社会的責任として重要なテーマです。地域貢献活動は、地域との共生を実現するための大切な取り組みの一つという認識のもと、環境美化、工場見学・実習受け入れ、災害時の協力体制の構築、事業所施設開放など、さまざまな活動を行っています。

2008年度地域貢献活動実績

	事業所	人数
清掃・環境美化活動	30	14,749
献血活動	32	2,829
見学・校外学習受け入れ	27	1,668



清掃活動

社員とともに

トッパンでは、従業員を会社の貴重な財産、すなわち「人財」ととらえています。そして、「企業は人なり」という理念のもと、従業員が、「やる気」「元気」「本気」で仕事に取り組めるようにバックアップしています。

安全で安心な職場づくり

労働安全衛生

労使で企画・運営する安全衛生委員会を設置し、定期的な安全教育・安全対策を実施することで、労働災害の撲滅をめざしています。とくに製造部門では、TPM活動の柱の一つとして安全衛生部会を設置し、従業員が怪我の心配をせずに能力を存分に発揮することができるよう、全員参加で改善活動を行い、安全の確保を図っています。労働災害発生時には、随時、グループ全体で発生原因・経緯を情報共有し、他事業所でも同様な事例が起きないように、各事業所に合った対策を実施しています。

職場の安全・衛生

	労災による死亡者	度数率 ^{※1}	強度率 ^{※2}
2006年	0名	0.16	0.02
2007年	0名	0.39	0.01
2008年	0名	0.19	0.001

※1 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による休業災害件数で、災害発生頻度を表す。

※2 1,000のべ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表す。

メンタルヘルス対策

未然防止や早期発見の観点からさまざまな取り組みを行うとともに、労使での意見交換も重ねています。2008年10月からは、休業した従業員が円滑に復帰するための「復職基準の明確化」「休業の反復抑止」「復職支援プログラム」といった規定を就業規則に設けるとともに、「こころの健康診断」の実施、アートを通じて心身のリフレッシュを図る「アートメンタル教室」の開設という新しい試みも行いました。

ワーク・ライフ・バランスの推進 (生産性の向上、次世代育成支援)

印刷業の特性から長年の課題となっていた長時間残業の撲滅に向け、2008年10月から、改めて全社一斉の取り組みを開始しました。仕事のやり方やマネジメント方法の見直し、部署内での業務調整、新たな勤務制度の試験導入などにより、2008年度後半の6カ月間は、前年の同時期と比べ、深夜残業や臨時出勤などによる長時間残業者の人数が約10分の1にまで減少し、平均残業時間も20%近く減少しました。

次世代育成支援では、出産退職社員の再雇用制度に登録した社員が、2006年度の制度導入から2年間で12名に達しました。育児をする社員のための勤務短縮制度は、適用期間を「子が3歳に到達するまで」から「子が小学校3年修了まで」に延長し、2008年度からは育児を事由とする時差出勤制度も開始しました。2009年度からは、通勤時の負荷緩和のため、妊娠期の時差出勤を認めるなど、制度の拡充を図っています。

年次有給休暇の取得状況

	平均取得日数	平均取得率 ^{※3}
2006年度	7.8日	41.2%
2007年度	7.7日	41.4%
2008年度	8.1日	43.5%

※3 平均取得率=平均取得日数/平均付与日数

産前産後・育児休業の取得状況

	産前産後休業取得者数	育児休業取得者数 ^{※4}
2006年度	40名	58名(1名)
2007年度	37名	63名(2名)
2008年度	42名	74名(2名)

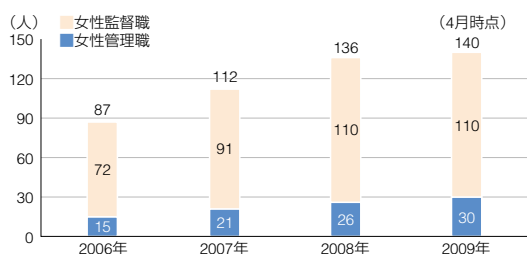
※4 ()内は育児休業取得者のうちの男性の人数

多様な人材の活用

女性活躍の場の拡大

女性の活躍による新しい価値創造をめざし、ポジティブアクションを推進しています。女性ならではの発想による新たな製品・サービスの提供は、お客さまや社会のニーズに応えるために欠かせません。トッパンでは、女性の管理・監督職登用を積極的に実施し、2009年4月1日時点で140名(3.31%)の女性管理・監督職が活躍しています。

女性管理・監督職推移



セカンドキャリア支援

会社生活の「第二ステージ(セカンドキャリア)」を支援するため、長年の経験が活かせる体制づくりを行っています。定年到達後の再雇用制度では、最長65歳までの雇用の場を提供しており、2008年度は定年退職者144名のうち86名が再雇用となりました。

障がい者の積極的雇用の継続

1993年に障害者雇用特例子会社である東京都プリプレス・トッパン(株)を設立し、以来同社での雇用を中心に障がい者雇用を積極的に推進してきました。トッパンの2009年6月1日現在の障がい者雇用率は1.90%です。



東京都プリプレス・トッパン(株)

人材の開発・育成

各階層別の研修や、各部門で求められる「能力・スキル」の習得を目的とした研修など、さまざまな研修を運用しています。上司と部下、先輩社員と新入社員などのコミュニケーション研修も重視しています。新入社員については、入社後3年間は育成期間と定め、「あるべき姿」に育成するための「ファーストキャリアプラン」を実施し、ブラザー・シスターと呼ばれる先輩社員がマンツーマンで育成にあたっています。

また、情報・ネットワーク系、生活環境系、エレクトロニクス系など、トッパンのノウハウを総合的にお客さまへお届けできる「総合力」のある人材を育成する人事ローテーションや、グローバル化対応研修、海外現地法人との人材交流、留学支援制度などを通じ事業のグローバル化に対応できる人材の育成にも力を入れています。

人材育成に関する実績

	社員一人当たりの研修等費用	トッパン研修センター利用率 ^{※5}
2006年度	37,900円	51.5%
2007年度	41,300円	66.4%
2008年度	35,325円	59.2%

※5 利用可能日数に対しての利用実績日数から算出(子会社・関連会社の利用含む)。



グローバル化対応研修の様子



サイアムトッパンパッケージングからの研修・技能実習生

取引先とともに

トッパングループ「CSR調達ガイドライン」に基づいて、取引先とともに、サプライチェーン全体にCSRへの取り組みを広げる活動に取り組んでいます。

トッパングループ「CSR調達ガイドライン」

トッパンでは、2007年5月に、従来の調達ガイドラインから改定したトッパングループ「CSR調達ガイドライン」に基づいて、取引先とともにCSRへの取り組みをサプライチェーン全体に広げています。このガイドラインは、調達に関わるトッパンの従業員が守るべき「調達基本方針」と、取引先に遵守を要請する「CSR調達基準」で構成されています。



<http://www.toppan.co.jp/csr/policy.html>

CSR調達基準の遵守と相互のレベルアップ

2007年度から、取引先にCSR調達への理解と協力を求める説明会を全国で開催しています。また、CSR調達に協力いただける取引先には「協力同意書」を提出いただくとともに、取引先のCSR調達基準への適合状況を把握するためのアンケート調査を実施しています。2008年度も継続してCSR調達に対する協力要請を進め、説明会には902社に参加いただきました。

アンケート調査は集計・分析を進めるとともに、取引先各社に対して評価結果を適宜フィードバックしています。また、この評価結果をもとに、取引先に訪問して、現

地の調査やCSRの取り組みに関する意見交換なども開始しており、CSR活動の相互のレベルアップを図っています。

2009年7月1日には、取引先からの通報窓口となる「サプライヤーホットライン」を開設するなど、取引先とのコミュニケーションの一層の充実も図っています。



取引先へのヒアリング

取引先における化学物質の管理

人体に影響を及ぼす化学物質の管理は、「CSR調達」の中でも大変重要な項目です。

トッパンでは全社共通の「原材料含有化学物質管理基準」を制定し、取引先と連携してその管理に取り組んでいます。

また、食品や医療品のパッケージ、エレクトロニクス関連部品、銀行カードやクレジットカードなど製品固有の管理が求められる事業分野では、全社共通基準に加え、固有の基準を定めて管理を行っています。

2008年度は、取引先における化学物質の管理の実効性を高めることを目的に、トッパンの品質マネジメントシステムによる管理体制の構築を行いました。

環境への取り組み

将来にわたってあらゆる生命が存続できる持続可能な社会の実現をめざし、

これまでの「凸版印刷地球環境宣言」をグループ全体の活動の基本理念「トッパングループ地球環境宣言」へと改め、より積極的にグループ全体で地球環境保全への取り組みを進めています。

Feature : 工場における環境関連の受賞

(株)トッパンNECサーキットソリューションズ(TNCSE) 富山工場

平成20年度「中部地区省エネルギー実施優秀事例」公募で「中部経済産業局長表彰」を受賞しました。既存設備の放熱を利用して空気を加温し、噴霧器で加湿することで、従来より少ないエネルギーでフロアの湿度調整を行う取り組みが認められて表彰されたものです。

神辺凸版(株)

(現・凸版西日本印刷加工株式会社 福山工場)

平成20年度「中国経済産業局長表彰エネルギー管理優良工場」を受賞しました。毎月の省エネルギー委員会の開催、照明設備の高効率化、冬季の外気を利用した「フリークーリング」システムの導入などにより、生産量原単位前年度比で5~10%の削減に成功したことが認められて表彰されたものです。

エレクトロニクス事業本部 新潟工場

(現・株式会社トッパンエレクトロニクスプロダクツ 新潟工場)

「PRTR大賞2008」で、PRTR優秀賞を受賞しました。PRTR大賞は、工場での化学物質管理と周辺自治体・住民などに対するリスクコミュニケーションなどについて、より優れた成果をあげている企業を表彰するものです。

新潟工場では、事業所の地域特性、製造製品の特性を考慮し、全社が進める環境管理方針からさらに踏み込んだ、事業所独自の化学物質管理が明確な管理方針とともに推進されている点や、近隣の方々との対話が長年にわたり継続されている点が高く評価されました。

※PRTR(化学物質排出移動量届出)制度: 有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。



噴霧器の活用による空調湿度調整
(富山工場)



電力量計によるエネルギー計測(神辺凸版)



VOC定期測定(新潟工場)

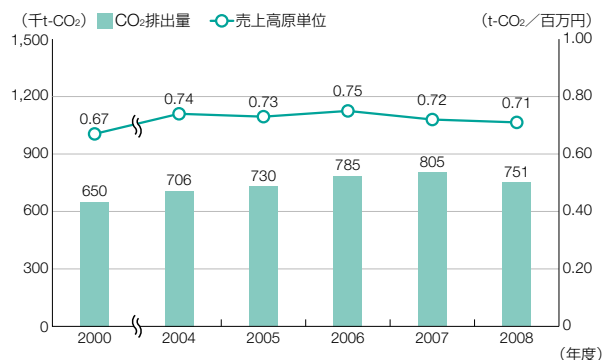
エコガード活動

地球温暖化防止と省エネルギー

中長期環境目標「2010年度における二酸化炭素排出量売上高原単位を2000年度比10%削減」の達成に向け、年度ごとの目標を設定して取り組みを行っています。2008年度は、圧縮エアの漏れ防止によるエネルギー使用量の削減や、燃料転換などに取り組みました。しかし、後半期における大幅な受注量の減少が大きく影響し、2007年度比5%削減の目標に対して、結果は0.9%の削減にとどまりました。

また、2000年度比では、6.3%増加していることから、今後も設備・機器の運用対策を中心に、さらなる省エネ活動を推進していきます。

CO₂排出量／売上高原単位の推移



大気汚染防止・オゾン層保護

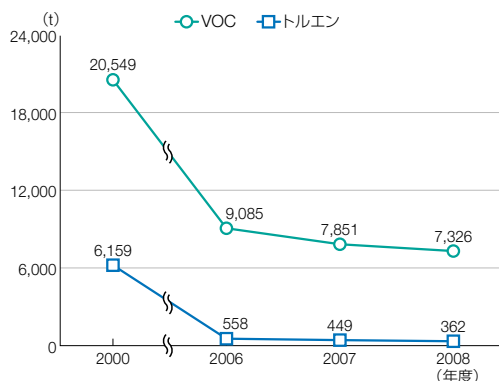
ボイラーなどのばい煙を発生する設備の適切な運転、VOC排ガス処理設備の導入などにより、大気汚染防止を徹底しています。2008年度は、VOC大気排出量2007年度比10%削減の目標に対して、6.7%削減にとどまりました。これには、洗浄剤取扱量の増加や、VOC排ガス処理設備に不具合が生じたことが影響しています。

また、オゾン層の保護のため、特定フロンを使用している設備については、法令に準じた管理を行いながら順次更新することを検討しています。

水質汚濁防止・土壌汚染防止

工程ごとに対応する排水処理施設の設置や排水リサイクルシステムの導入により、水質汚濁の防止、取水・排水量の削減に努めています。また、薬液類貯蔵施設への防液堤の設置や、タンク・配管の定期点検によって、土壌汚染の未然防止に努めています。

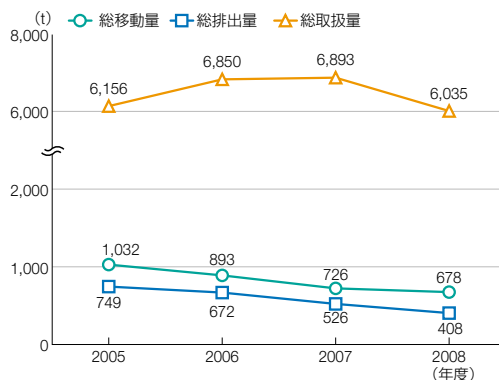
VOC・トルエンの大気排出量推移



化学物質の管理

PRTR指定化学物質の取扱量削減に取り組んでいます。2008年度はインキや洗浄溶剤などを、トルエンを含まない、もしくは低含有のものへ切り替え、取扱量を2007年度比5%削減する目標に対して、12.4%削減しました。また、総排出量と総移動量も、2007年度比でそれぞれ22.3%と6.6%削減しました。今後も材料の切り替えなどを進め、取扱量の削減に努めていきます。

PRTR指定化学物質量の推移



環境コミュニケーション活動

グループ内外への啓発活動や地域社会との対話を通じて、ステークホルダーと環境保全に取り組む意識を共有する「環境コミュニケーション活動」にも積極的に取り組んでいます。

地域社会とのコミュニケーション

近隣の方々を事業所にお招きして開催する環境への取り組みをテーマとした懇談会をはじめ、近隣の学校の見学受け入れ、環境イベントへの参加、事業所別の環境報告書「サイトエコレポート」の発行・配布などを通じて、地域の皆さまとのコミュニケーションを行っています。2008年度は、33事業所でサイトエコレポートを発行しました。



事業所の見学会

社会とのコミュニケーション

トッパンの環境への取り組みを広く社会にご理解いただくために、さまざまな団体が主催する講演会への講師派遣や環境展示会への出展のほか、このような企画の自主開催も行っています。また、トッパン小石川ビルにあるPLAZA21は、トッパングループの総合力を紹介する情報コミュニケーションスペースとして、環境配慮型製品を常設展示しています。



エコプロダクツ2008

エコクリエイティブ活動

地球温暖化、資源循環、生物多様性の保全など、さまざまな環境課題の解決に貢献する環境配慮型製品やサービスの開発・販売に取り組んでいます。

環境配慮型の印刷方式、素材（インキ、紙など）のご提案はもとより、国産間伐材を使用した紙製飲料容器・カートカン、安全素材を使用した電子部品、廃木材・廃プラスチックなどを再利用した建材など、事業分野ごとにさまざまな製品を開発・販売しています。また、このような環境配慮型製品を開発するための仕組みの整備・更新も継続的に行っています。

2008年度は、LCAの考え方を活用した印刷製品に適する環境配慮型製品評価手法の構築や、地球温暖化対策の一環として、製品・サービスのCO₂排出量を算出・表示する「カーボンフットプリント」に対応するための準備を開始しました。

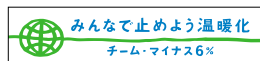


「超極薄紙DM」

紙使用量を削減し、のり綴じでリサイクル適性を向上



再生建材「トッパン・マテリアルウッド」
廃木材と廃プラスチックが100%主原料



このロゴはサステナビリティ日本フォーラムの会員であることを証明するもので、レポートの内容に検証を与えたものではありません。